

令和 2 年度事業報告書 — みくに湊・短期入所生活介護 —

テーマ：自立した生活が送れるように、より良いチームケアの提供と地域支援体制の強化を図る

サブテーマ：多職種で連携し、できることの継続と快適な生活を支える

1. 快適に施設生活を送れるよう丁寧に温かいサービスを提供する（入所）

- ① コロナ禍の中、面会の長期間中止、面会再開の際も、窓越しやビニール越し、人数、面会頻度等の制限など感染対策の徹底を図った。そのような中で、ライン配信の取り組みや毎月の近況報告により、本人や家族の寂しさ不安に寄り添うよう努めた。
- ② R2 年 2 月より、新型コロナ発生情報に合わせて、外部の方が参加される運営推進会議は、開催を中止したが、会議内容を外部の各参加者に書面報告し、運営は適切に行った。
- ③ 職員にはストレスケアに努めながら、「虐待目摘みチェックシート」を記入して、普段のケアや対応を振り返り、不適切ケアを回避することができた。

2. 住み慣れた自宅での生活が継続できるよう支えていく。（短期）

- ① 5 月～10 月の半年間、夜勤職員不足のため休止することになった。休業期間に於いて職員育成に努め、11 月からショート再稼働することができ、少しずつ稼働率回復に努める。
- ② ケアマネや相談員、看護師、介護士等、多職種で情報を共有し、意向に沿ったケアを提供することができていた。
- ③ ショート利用者の状態や性格等の情報共有は、ミーティングや会議で伝達に努めたことで、特に大きなアクシデントもなく、事前にトラブル防止ができていた。

3. 働き方改革により魅力ある職場づくり

- ① ベトナムより 2 名の技能実習生が就業したことで、配属先のチームの雰囲気明るくなり、職員、入所者の笑顔が増えた。
- ② 人員不足により職員の負担が多い。特にチームの責任者の負担が増えているので、現在も業務を見直し、応援体制の協力を細かな部分で行うが、補充が必要である。（夜勤、土日、祝日に勤務可能職員）

- ③ コロナ禍で3密回避のため直接研修参加はできなかったが、管内のWI-FI環境を早期に整え、アクリル板を設置するなどWEB会議を中心に、新たな形で研修に参加できた。

4. その他 コロナ感染予防・発症対策

- ① 職員1名が新型コロナ陽性者として発生したため、保健所の指示で3チーム入所者・全職員のPCR検査が実施となる。結果は全員陰性であったが、本人や家族の不安な気持ちに寄り添い、連絡を細目に行い、ショート利用者については、希望に応じて短期利用の延期や、代替サービスの提案を行った。
- ② 新型コロナ対策としては、発症前より、手洗い・アルコールでの手指消毒の徹底、また、国からの「かかり増し経費の補助金」より、施設内にはチーム間をビニールカーテンで仕切り、ロッカーや玄関を分け、ゾーン分けすることで職員の移動を制限、また各事業所の玄関に洗面所を設置したことで、クラスター感染を防止することができた。引き続き入所者・利用者の生命と生活を預かることを使命として感染対策を再度確認、職員の周知徹底に努めたい。